## 豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

平成20年度新規

1 ■事務事業の概要

■争務争業の概要										
1-1事務事業の 名称										
1-2担当	部 健康福祉部 課長補佐兼医療健康課 係 医療年金係 評価票作成者 課長補佐兼医療担当係長 稲熊篤子									
1-3総合計画における施策の体系	①節		保健福祉		③基本施策	福祉医療			コード	2-3-1
	URU URU	健康で安心して暮らせるふれあい・支えあいのまちづくり				④単位施策(中)	福祉医療	寮制度の周知と適正化	コード	2-3-1-3
	2項		社会保障		⑤単位施策(小)	福祉医療	寮制度の周知と適正化	コード	2-3-1-3-1	
1-4事務事業の目的の精査	対象と 対象の数									
1-5事務事業の 内容	老人クラブ等を中心とした地域に出向いて制度の説明をしたり、広報、ケーブルテレビ、ホームページ等で周知を図る。									

2 ■事務事業実施の状況

係る活動実績とコストの推移 (アウトプット分析)	2-1事務事業の		事務事業実施	<b>値にあたって心がけた</b> 値	<b>改善の取組み</b>	社会状況等	の事務事業がおかれ	る環境把握		市民二一	-ズの認識	
* 接数の年度         広報・ホームページでPRをするともに老人クラブを中の変更られた。         後期高齢者経過採線は仕組みが複雑で、さらに何度も制度 内変更があり、解析のでは対してくなっている。         中な2年度 を関係の説明を行った。         を取る分子を使用高齢者医・大きの説明を行った。         を取る分子を使用高齢者医・大きの説明を行った。         を取る分子を使用高齢者医・大きの説明を行った。         を取るの説明を行った。         を取るの説明を行った。         を取るの説明を行った。         を取るの説明を行った。         を取るの説明を行った。         を取るの説明を行った。         を取るの問題を行った。         を取るの問題を行った。         を取るの問題を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの問題を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を定なが、制度についての問い合かます。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を行った。         を取るの認知を定なが、制度		平成18年度										
中成21年度   中成21年度   中成21年度   中域21年度   中域21年度		平成19年度										
中成21年度 平成22年度 平成22年度 平成23年度 平成23年度 平成23年度 平成25年度 平成25年度 平成27年度         上版・水の場所を経験にあるとしたのの場所を不安が表れて表現を記録した。 とたなり、現在新たな制度が検討されている。 とたなり、現在新たな制度が検討されている。 とたなり、現在新たな制度が検討されている。 とたなり、現在新たな制度が検討されている。 とたなり、現在新たな利度が検討されている。 とたなり、現在新たな利度が検討されている。 とたなり、現在新たな利度が検討されている。 となり、対理を行った。 数期会の要請はなかったが、利度について認明を行った。 後期高齢者医療制度も4年目になり市民に浸透し、落ち着いてきたため、説明会の要請はなかったが、制度についての問い合わ多数あり説明を行った。           2 - 2 総合計画における年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度         2 - 2 総合計画におけるとの言葉を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を表現を		平成20年度										とにより、後期高齢
平成29年度         地域での説明会、広報、ホームページなどで後期高齢者医療制度について説明を行った。政権会代により後期高齢者医療制度が2年後に廃止されることになったが、1年先送りになりそうな状況であるとかあり説明を行った。         と関係の影明を行った。政明会の要請はなかったが、制度についての問い合わるとなるとの表別説明を行った。           との表別の説明を行った。         と変わり説明を行った。         と関係の機能を成場であるとの表別の説明を行った。         と関係の機能を成場であるとの表別の説明を行った。         と関係の機能を成場であるとの表別の説明を行った。         と関係の機能を成場であるとの表別の説明を行った。         と関係の機能を成場であるというまままままままままままままままままままままままままままままままままままま		亚比91年度	地域での説明会、	広報、ホームページな		政権交代により後	期高齢者医療制度が3	<b>3年後に廃止されるこ</b>				と不安が表れてき
・		療利皮にプロく説明を行うて。   さしな。   さしなり、現仕組行な利度が検討されている。   「こ。   地域での翌回なった。   よっしゃ。   としなり、現仕組行な利度であった。   よっながりによりな知道があった。   よっながりによりな知道があるに変しません。   よっながりによりな知道があるに変しません。   よっながりによりな知道がある。   よっながりによりな知道がある。   よっながりによりな知道がある。   よっながりによりな知道がある。   よっながりによりな知道がある。   よっながりによっながらればいる。   よっながらいというによっながらいます。   としている   よっながらいます。   よっながらいというによっながらいます。   よっながらいます。   よっながらいまながらいます。   よっながらいます。   よっながらいながらいながらいながらいながらいながらいながらいながらいながらいながらい										
平成24年度       広報、ホームページなどで後期高齢者医療制度について説明を行った。後期高齢者医療制度も5年目になり市民に浸透し、落ち着いてきたため、説明会の要請はなかったが、制度についての問い合わる数あり説明を行った。         2 - 2 総合計画に おける単位施策成 果指標 (単位) (地域での説明会、広報掲載、ホームページ、テレビ広報など回数)       事務事業成果指標名       前期目標値(単位) 後期目標値(単位) (地域での説明会、広報掲載、ホームページ、テレビ広報など回数)       指標の説明         2 - 3 成果指標に (落活動実績とコストの推移 (アウトブット分析)       平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成23年度 平成23年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度 13年度 14日 14日 15年度 15年度 15年度 15年度 15年度 15年度 15年度 15年度		平成23年度	広報、ホームペータ数をお割明を行っ	ジなどで後期高齢者医	<b>E療制度について説明</b>	<b>月を行った。後期高齢</b>	者医療制度も4年目	になり市民に浸透し、	落ち着いてきたため	、説明会の要請はな	かったが、制度につい	っての問い合わせは
平成25年度       平成26年度       平成27年度       2 - 2 総合計画における単位施策成果指標名     事務事業成果指標名     前期目標値(単位)     後期目標値(単位)       別知機会の回数8 (回) (地域での説明会、広報掲載、ホームページ、テレビ広報など回数)     12 (回)     12 (回)     対象者は75歳以上の高齢者になるため、制度の内容を理解してもらうには広報やホームページ・十分な説明が難しいことから、地域での説明会は重要であり、機会があれば説明に出向く。       2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移 (アウトブット分析)     平成18年度     平成19年度     平成20年度     平成21年度     平成23年度     平成24年度     平成25年度     平成26年度     平成27       10 指導業費 (- (千円) 人件費 (- (千円) 人件) (- (- (千円) 人件) (- (- (- (- (- (- (- (- (- (- (- (- (-		76 -P-0.4 /r: rds	広報、ホームペー	ジなどで後期高齢者医	<b>E療制度について説明</b>	用を行った。後期高齢	者医療制度も5 年目	になり市民に浸透し、	落ち着いてきたため	、説明会の要請はな	かったが、制度につい	っての問い合わせは
平成27年度       2 - 2総合計画に おける単位施策成 果指標     事務事業成果指標名     前期目標値(単位)     後期目標値(単位)     指標の説明       周知機会の回数8 (回) (地域での説明会、広報掲載、ホームページ、テレビ広報など回数)     12 (回)     12 (回)     対象者は75歳以上の高齢者になるため、制度の内容を理解してもらうには広報やホームページ・分な説明が難しいことから、地域での説明会は重要であり、機会があれば説明に出向く。       2 - 3 成果指標に 係る活動実績とコストの推修 (アウトブット分析)     平成18年度     平成19年度     平成20年度     平成21年度     平成23年度     平成24年度     平成25年度     平成26年度     平成27       人件費 (千円) 人件費 (1+r) 自計コスト は (1+r) 自計コスト は (1+r) 自計・スト (1+r) 自計・スト (1+r) 自対・大きに (1+r) 自対・大			多数の分配物で行う	70.								
2-2総合計画に おける単位施策成 果指標     事務事業成果指標名     前期目標値(単位) 後期目標値(単位)		平成26年度										
おける単位施策成果指標     周知機会の回数8 (回)     (地域での説明会、広報掲載、ホームページ、テレビ広報など回数)     12 (回)     12 (回)     対象者は75歳以上の高齢者になるため、制度の内容を理解してもらうには広報やホームページ (地域での説明会、広報掲載、ホームページ、テレビ広報など回数)       2 - 3 成果指標に係る活動実績とコストの推移 (アウトブット分析)     平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成23年度 平成25年度 平成26年度 平成27       おおける単位に表す。		平成27年度										
果指標     周知機会の回数8 (回) (地域での説明会、広報掲載、ホームページ、テレビ広報など回数)     12 (回)     12 (回)     対象者は75歳以上の高齢者になるため、制度の内容を理解してもらうには広報やホームページ 十分な説明が難しいことから、地域での説明会は重要であり、機会があれば説明に出向く。       2 - 3 成果指標に 係る活動実績 ストの推移 (アウトブット分析)     平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成23年度 平成23年度 平成23年度 平成25年度 平成25年度 平成25年度 平成27年度 平成26年度 平成27年度 平成27年度 平成26年度 平成27年度	2-2総合計画に		事務事	<b>事業成果指標名</b>		前期目標値(単位)	位)   後期目標値 (単位)   指標の説明					
係る活動実績とコストの推移 (アウトプット分析) a (単位) 直接事業費 b (子巴) 人件費 c (千円) 合計コスト d (b+c)				ームページ、テレビ広	報など回数)	12 (回)	12 (回)					
ストの推移 (アウトブット分析)     a (単位)     20 (巨)     5 (巨)     4 (巨)     5 (巨)       上ブット分析)     直接事業費 (上 (干 円)     0     0     0     0       人件費 (上 (干 円)     90     13     9     0     0       合計コスト (d (b+c)     90     13     9     0     0			平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
b (手円)     0     0     0       人件費     90     13     9     0     0       合計コスト d (b+c)     90     13     9     0     0					20 (回)	9 (回)	8 (回)	4 (回)	9 (回)			
c (千円)     90     13     9     0     0       合計コスト d (b+c)     90     13     9     0     0	トプット分析)	b (手円)			0	0	0	0	0			
$\left  \frac{d(b+c)}{d(b+c)} \right  = 90 = 13 = 9 = 0 = 0 = 0$					90	13	9	0	0			
					90	13	9	0	0			
単位コスト d/a (千円)     1回当たり4.5     1回当たり1.4     1回当たり1.1     1回当たり0     当たり     当たり		d/a			1回当たり4.5	150/25-61-4	1回客を211	150V - h 0	15774- h 0	ust n	NA TO	ust-n
(千円)   1回当たり4.5   1回当たり1.4   1回当たり1.1   1回当たり0   1回当たり0   当たり   当たり   当たり   当たり   当たり   当たり   当たり   お助実績(9回):地域での説明会等0回、広報掲載8回、ホームページ1回   人件費(0千円):地域説明会0回		( , , , , ,	100 MH 171 444	Market (OE)					103/6/0	目だり	当だり	ヨルリ

2	2-4成果指標に		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
対成度		指標対応実績(回)			20	9	8	4	9			
		後期目標値 に対する達 成度(%)			166.7	75	67	33	75			

3 ■事務事業の自己評価結果

	而結果	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
(アウトカ	ム自己分 単年度			Α	Λ	Α	Α	Α			
析)	担当課評価			A	A	A	A	A			

● 4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する

B: 事務事業の実施手法や環境 (予算的・人的) に改善が必要

C: 縮小等、事務事業としての見直しが必要

D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 ①必要性(必要な事務事業であるか)

②公共性 (公が実施する意味があるか)

③妥当性 (ニーズに対して投入が適正か) ④効率性 (結果に至る活動に無駄はないか)

⑤有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)

⑥市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

今後の環境変化を踏まえた課題認識 次年度に向けて改善する取組み 事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価 3-2評価の内容 平成18年度 平成19年度 平成20年度4月からの実施のため制度の内容が理解されて 平成21年度も制度の改正が予想されており、要請があれば 4月・5月は連日新聞、テレビ等で後期高齢者制度が批判され、苦情問い合わせ 平成20年度 いないことにより、4,5,6月は問い合わせや苦情が多かった 地域に出向き説明を行いたい。 等多かったが、地域での説明会を行った結果、出席者には理解をしてもらった。 が、現在は問い合わせ等は減っている。 現在後期高齢者医療制度に替わる新しい制度が検討されて 新しい制度の準備が始まるまでは、現在の後期高齢者医療 後期高齢者医療制度も次第に理解されてきたため、説明会の要請は減少してき 平成21年度 平成22年度 逸し、落ち着いてきたため、説明会の要請は減少してきた。 現在後期高齢者医療制度に替わる新しい制度が検討されているが、新しい制度の準備が始まるまでは、現在の後期高齢者医療制度の内容について周知を行う。政権交代により近年に後期高齢者医療制度が 平成23年度 廃止される予定である。 後期高齢者医療制度に替わる新しい制度が検討されていたが、政権交代により方向性は不明である。現在の後期高齢者医療制度の内容について周知を行う。 平成24年度 平成25年度

**4 ■事務事業の総合評価結果** 4 - 1総合評価の \_\_\_\_

結果

平成26年度平成27年度

付所が	和米	結果	審査会による改善方向の指示
	平成18年度		
	平成19年度		
	平成20年度	A	継続して事業を進めること。
	平成21年度	A	継続して事業を進めること。
	平成22年度	A	継続して事業を進めること。
	平成23年度	A	継続して事業を進めること。
	平成24年度	A	継続して事業を進めること。
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		